

『見捨てられたキリスト』

'21/03/28(会員総会)

聖書箇所: ルカの福音書 22 章 47-71 節(新約 p.164-)

来週は「イースター」、つまり、1年に1度、イエス様が、この時期に、あの十字架の死からよみがえってくださったことをお祝いする日であります。その1週間前の今日、私たちは、「受難週」ということで、今一度、イエス様が、どんな状況で、あの十字架へ向かっていってくださったのか?ということ、皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。

命題: 十字架の直前、イエス様を見捨ててしまった者たちとは?

ちょうど、先週の礼拝で、私たちは、あのペテロが、イエス様のことを「あなたは、生ける神の御子キリストです!」ということをお告げしたことを学びました。今日、私たちが学ぼうとしていますのは、それから、約半年後、イエス様が、あの十字架に磔になられる“前夜”のことです。そのみことばから、あの時、私たちの救い主として来てくださったイエス様が、どのような感じで、あの十字架へ向かっていかれたか?なかでも、今日は、イエス様のことを見捨てていった者たちのことを観察していきたいと思えます。

そうすることによって、私たちは、如何に、人間という生き物が罪深く…、弱い生き物なのか?それに反して、イエス・キリストというお方が、どれほど、大きな愛と大きな使命感をもって、あの十字架にかかってくださったのか?今、私たちが、そのイエス様に、どうやって報いるべきなのか?ということなどを学んでいきたいと思えます。

どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、ルカ伝 22 章をお開きください。今日は、受難週ということもあって、いつものマルコ伝のみことばではなくて、ルカ伝のみことばから、一緒に学んでいきたいと思えます。それと、今日は、会員総会がありますので、礼拝の時間も、いつもより短く終えないといけません…。どうぞ、そういったことをご了承いただきまして、一緒に、聖書のみことばを学んでまいりましょう。

I・12弟子であった、イスカリオテ ! (47-53 節)

まず、私たちが今日、最初に注目していきたい人物は、12弟子でありながら、イエス様のことを裏切った“イスカリオテ”であります。残念なことに、このイスカリオテ(ユダ)という人物は、イエス様の弟子でありながら、イエス様のことを裏切って…、そうして、自らの身に破滅を招いてしまいました…。まずは、そういったことを確認していきたいと思えますので、どうぞ、今回のみことばの内、47-53 節の部分をご覧ください。

47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとり、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。

48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか?」と言われた。

49 イエスの回りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ。剣で撃ちましょうか?」と言った。

50 そしてそのうちのある者が、大祭司のしもべに撃ってかかり、その右の耳を切り落とした。

51 するとイエスは、「やめなさい。それまで」と言われた。そして、耳にさわって彼をいやされた。

52 そして押しかけて来た祭司長、宮の守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。」

53 あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。」

●イスカリオテのユダの裏切り と、イエス様の愛

さて、今読んだみことばに記されておりましたように、この時、イエス様のことを捕えようとする者たちが大勢やって来ました。しかも、その先頭を導いていたのは、何と、イエス様の弟子の1人であった、イスカリオテであったのです。確かに、その当時、そういったことに、他の弟子たちは驚いたでしょうが、イエス様はすべてをご存知でありました。だから、イエス様は、最後の晩餐の時、何気なく、パン切れをイスカリオテに渡して、この後、イスカリオテが裏切るということ、弟子のヨハネに対して“だけ”、教えてくださったのです。

でも、一体どうして、イエス様は、その時、ヨハネにだけ、イスカリオテが裏切るということを教えられたのでしょうか?…なんなら、イスカリオテが裏切る前に、彼をとつかまえて、カブくで、止めさせても良かったんじゃないませんか?

正直、私なら、そういったことをしたかも知れません。しかし、イエス様が、そういったことをされなかったのは、このイエス様こそが、約束の救い主…、真唯一の神であられたからです。…皆さん、覚えておられますか? イエス様は、マルコ 3 章で、「どんな労働もしてはならない!」と定められていた安息日に、ある者の手を癒されました…。その時、イエス様のことを訴えようとしていたパリサイ人たちに向かって、イエス様は何とおっしゃいました?⇒マルコ 3:4 には、こう記されてあります、『…安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか、それとも殺すことなのか?』って…。このように、イエス様は、「安息日というものは、特に、神様のみこころに沿ったことをしなければならぬ!」ということを教えてくださいました。まあ、その時、イエス様は、そうおっしゃったことで、益々、パリサイ人たちの怒りを買ってしまったわけですけれども…。

それだけではありません。例えば、あの使徒パウロは、こんな風に教えてくれています。ローマ 12:21、『悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。』…また、I テサロニケ 5:15 でも、パウロは、『だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう務めなさい。』と教えてくれています。

このように、イエス様は、神様のみこころというものをよくご存知で…、常に、そういった神様のみこころに従っておられ…、神が喜ばれることだけを実践しておられたのです。だから、イエス様に対して悪を行なおうとしたイスカリオテに対して、イエス様は、悪で報い返そうとはせず、常に、神様に喜ばれることで…、善でもって報いられたのです。それがイエス様です!

●イエス様を拒んだイスカリオテの末路

最後の晩餐の時、イエス様は、イスカリオテに対して、パンを浸して、それを渡されました…。実は、そういった行為は、その当時の習慣で、親しい間柄で行なうような、「愛の行為」でありました。何と、イエス様は、自分のことを裏切ろうとしていたイスカリオテに対して、“愛を示された”のです!…にも関わらず、当のイスカリオテは、イエス様のことを裏切るための手筈を、この後、進めていってしまいます…。

さて、イエス様のことを裏切ったイスカリオテが、その後で、どうなってしまったか?…聖書は、はっきりと、イスカリオテがイエス様のことを裏切った後のことも記してくれています。マタイ 27:3-9、『3 そのとき、イエス様を売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、4 「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ」と言った。5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつた。6 祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから」と言った。7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。』

⇒このように、天の神様は、イスカリオテが裏切ることも…、彼が銀貨 30 枚を受け取ることも御存知でした。だから、旧約聖書(のゼカリヤ 11:13)にも預言されてあったのです。…しかし、イスカリオテは、その後、激しく後悔して…、結局、今さき読んだみことばに記されてあったように、自殺してしまいました。彼は、一体、何のために、イエス様のことを売って…、銀貨 30 枚を手にしたのでしょうか？

イスカリオテに限らず、私たちが手にする財産は、いつか私たちから離れていきます。…と言いますのも、私たちは、財産を持ったまま、死後の世界に行くことはできないからです。そうでしょ？…財産なんていうものは、いつか必ず、手放さないといけないのです。そんなことよりも、聖書のみことばは、こう教えます、『なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。』(Ⅱコリント 5:10)って…。

実は、このイスカリオテの場合、**マタイ 26:24** を見てみますと、そこで、**イエス様は、イスカリオテのことを指して、『…人の子を裏切るような人間はわざわざいいます。そういう人は生まれなかつたほうがよかつたのです。』**とおっしゃって、**さもイスカリオテが永遠の裁きに至ってしまうであろうことが予言されてあります。**

良いですか、皆さん？…私たちが、この地上でなした1つ1つのこと…、それらすべてを天の神様は御存知です。果たして、あなたは、神様からお褒めの言葉をいただいて、間違いなく、天へ行くことができるでしょうか？神様のお言葉である聖書は、こう教えます、「義人はいない！一人もいない！自分の行ないで天国へいけるような良い人間はどこにも居ない！」って…。…果たして、あなたは、本当に、神様から「あなたは良い人間である！義人である！」と評価されて、天国へ行けるでしょうか？…どうか、そういうことを、皆さんご自身でも考えていただきたいと思います…。

Ⅱ・12弟子の中でもリーダー格であった、**ペテロ**！(54-62節)

さあ、今度は、今回のみことばが教えてくれている、第2の人物に焦点を当てていきましょう。**次に挙げられているのは、12弟子の中でもリーダー格であったはずの、“シモン・ペテロ”であります。**皆さんもご存知ように、あのペテロもまた、一時は、イエス様のことを見捨ててしまいました…。どうぞ、もう1度、今回のみことばに戻っていただきまして、そのルカ 22:54-62 をご覧ください。

54 彼らはイエスを捕らえ、引いて行って、大祭司の家に連れて来た。ペテロは、遠く離れてついて行った。

55 彼らは中庭の真ん中に火をたいて、みなすわり込んだので、ペテロも中に混じって腰をおろした。

56 すると、女中が、火あかりの中にペテロのすわっているのを見つけ、まじまじと見て言った。「この人も、イエスといっしょにいました。」

57 ところが、ペテロはそれを打ち消して、「いいえ、私はあの人を知りません」と言った。

58 しばらくして、ほかの男が彼を見て、「あなたも、彼らの仲間だ」と言った。しかしペテロは、「いや、違います」と言った。

59 それから一時間ほどたつと、また別の男が、「確かにこの人も彼といっしょだった。この人もガリラヤ人だから」と言い張った。

60 しかしペテロは、「あなたの言うことは私にはわかりません」と言った。それといっしょに、彼がまだ言い終えないうちに、鶏が鳴いた。

61 主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う」と言われた主のおことばを思い出した。

62 彼は、外に出て、激しく泣いた。

●**イエス様のことを、3度も** 否定した **ペテロ**

イスカリオテがイエス様のことを裏切って、群衆や大祭司のしもべたちを引き連れてやって来た時、ペテロは、当初、勇猛果敢にも、剣でもって、時の権力者たちに立ち向かおうとしました。彼は、何とかして、イエス様のことを守ろうとしたのでしょう。しかし、その後、ペテロは恐れをなしてしまいました…。ちょうど、その時のことが、今のみことばに記されてあります。

この時、イエス様は、大祭司カヤパの邸宅へ連れて行かれます。そこで、シモン・ペテロは、イエス様のことを遠くから見守っていました。…すると、その時、ある女中が、ペテロのこを見つて、そのペテロのことを、「この人も、あのイエスと一緒にいました！」ということを出します。しかし、ペテロは、それを否定して、『**いいえ、私はあの人を知りません**』と言います。そういうようなことが3度もあって、3度目に、ペテロは、どうとう、呪いを込めて、イエス様のことを強く否定してしまった、というようなことが並行箇所であるマタイ伝には記されてあります。

●**イスカリオテとペテロとの** 違い

イスカリオテは、イエス様の弟子でありながら、イエス様のことを銀貨 30 枚で裏切ってしまいました。でも、ペテロもまた、イエス様のことを3度も強く否定してしまいました…。しかし、そのペテロは、この後、**自分の罪を正しく悔い改めて、ローマ教会の監督になっていったことが分かっています。**一体どうして、イスカリオテとペテロとで、同じような過ちを犯してしまったように見えるのに、こんなにも大きく違っているのでしょうか？

まず、彼らと比較してみて、大きく違うのは、その行為に至った動機であります。確かに、イスカリオテも、またペテロも、ある意味、同じように、イエス様のことを否定し…、拒んだように見受けられます。しかし、その行為にまで至った、彼らの動機は全く違うものであります。…実は、ヨハネ 12:6 辺りを見ても、イスカリオテが 12 弟子の中で会計係であったことを利用して、その中からお金を盗んでいたことが分かります。そういうことから、イスカリオテが、ある程度前から、不純な動機でイエス様に仕えていたであろうことが分かります。

それに対して、シモン・ペテロは？と言うと、確かに、彼の言ったことには嘘であり…、事実ではありませんでした。…でも、ペテロの場合、嘘を言いたくて言ったものではありません！皆さんも、よくご存知の、このみことばがあります、『**…人はうわべを見るが、主は心を見る。**』(Ⅰサムエル記 16:7) × 2 って…。一見すると、イスカリオテも、ペテロも同じような罪を犯したかのように映るかも知れません。しかし、イスカリオテとペテロとは、大きな違いがありました。それは、彼らの心です！彼らの心は…、と言うか、その内にある信仰は、偽りの信仰と本物の信仰の差でありました…。だから、彼らの行く末は、同じ、「イエス様の弟子」という立場にありながら、その後は大きな違いとなっていったのです…。

例えば、旧約聖書中に出てくる、信仰の偉人であったダビデ王は殺人という、大きな罪を犯しました。でも、その後で、彼は、その罪を神の前に正しく悔い改めました。…どうぞ、もしできたら、詩篇 51:16-17 をご覧くださいませ？『16 たとい私がさざげても、まことに、あなたはいけにえを喜ばれません。全焼のいけにえを、望まれません。17 **神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。**神よ。あなたは、それをさげすまれません。』⇒この詩篇は、見出しの部分にも書かれてあります通り、あのダビデ王が神様のみこころに逆らって、バテ・シェバと不貞の罪を働いた上、殺人にまで手を染めてしまったことを悔い改めた時に捧げた祈りである、ということが分かります。この時に、**ダビデは、心から自分の犯した罪を悔い改めました。だから、ダビデの罪は、神様の前で赦されました。それが、神様の赦しです。**ダビデは、そのような…、罪の赦しを神から与えられたのです。

Ⅲ・その他、多くの民衆たち！(63-71節)

最後に、駆け足で、3つ目のポイントを見ていきたいと思えます。最後は、当時、イエス様の周りに居た多くの“民衆”たちであります。実に残念なことながら、イエス様のことを最後の1番大事な時に見捨ててしまったのは、何も、イスカリオテやペテロといった、弟子たちだけではありませんでした。その周りの民衆たちもまた、イエス様のことを、まるで、手のひらを反すかのように、冷たく見捨ててしまったのです。最後に、そのことを確認していきましょう。どうぞ、今回のみことばの、ルカ 22:63-71 をご覧ください。

- 63 さて、イエスの監視人どもは、イエスをからかい、むちでたたいた。
64 そして目隠しをして、「言い当ててみろ。今たたいたのはだれか」と聞いたりした。
65 また、そのほかさまざまな悪口をイエスに浴びせた。
66 夜が明けると、民の長老会、それに祭司長、律法学者たちが、集まった。彼らはイエスを議会に連れ出し、
67 こう言った。「あなたがキリストなら、そうだと言いなさい。」しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょうし、
68 わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。
69 しかし今から後、人の子は、神の大能の右の座に着きます。」
70 彼らはみなで言った。「ではあなたは神の子ですか。」すると、イエスは彼らに「あなたがたの言うとおり、わたしはそれです」と言われた。
71 すると彼らは「これでもまだ証人が必要でしょうか。私たち自身が彼の口から直接それを聞いたのだから」と言った。

●時の 宗教家たち の本性

さて、このみことばには、イエス様が捕えられた後のことについての説明がされています。この時も、残念なことに、イエス様の周りには、たくさんの監視人たちが居て、彼らがイエス様のことをあざけたことが記されています。

でも、それだけではありません。この夜が明けた時、『民の長老会、それに祭司長、律法学者たちが、集まった。…』ということが記されていました。彼らは、イエス様のことを支持する者たちが周りに多く居た時には、何もすることができずに…、イエス様が不利になった時に、このように出て来ては、イエス様のことを激しく攻撃するわけです。彼らは普段、敬虔な宗教家の振りをして…、その仮面を剥がすと、「イエス様のことを何とかして、十字架へ追いやろう！何とかして、こいつを抹殺してしまおう！」という欲望と言うか、罪をむき出しにするのです。…でも、果たして、これが神に仕える宗教家の姿でしょうか！

●時の 民衆たち の過ち

彼らだけではありません。実は、イエス様が裁判にかけられた時、多くの民衆たちが、時の祭司長たちによって、扇動されていたことがマタイ 27章やマルコ 15章などに記されています。このように、多くの者たちが、時の権力者たちに流されて、彼らの言いなりになってしまって、「イエスを十字架に付けろ！代わりにバラバを釈放しろ！」などと叫んだのです。そんな風に、私たち人間とは本当に弱く、罪深い生き物なのではないでしょうか？

皆さんだって、そうじゃありません？…皆さんだって、たった1人で、この全世界を敵に回すような勇気や信念があります？…例えば、皆さんは、クラスの中で、無茶苦茶いじめられている友達を絶対に助けることができます？今度は、自分自身がいじめられるかも知れないのに…。あるいは、職場の皆が不正を働いていて、自分も同意しないと、クビにされてしまうとか…。正直、口で言うことは容易くても、それを

実際にやってのけることは、どれほど、大変なことか…。でも、イエス様は、たった一人で、神の前に正しいことをなされたのです。…その結果が、この十字架だとも言い得るわけです…。

もしも、あなたが、自分が罪人であることを認め、それを、神の前で正しく悔い改めるなら、あなたの罪も赦されます。…この世の中に、「たった1度も罪を犯したことが無い」なんていう人間は存在しません！すべての人間が罪人なのです！…だから、私や皆さんに必要なのは、自分自身が罪人であることを認め、それを神様の前で正しく悔い改めることです。それ以外に、私たちに救いの道はありません。ですから、まだ、このイエス様を信じておられない方は、1日も早い内に、この信仰を持ってくださることをお勧めします。

もう時間なので、今日のメッセージを終えないといけません。…私たちが今日、覚えないことは、「ああ、イスカリオテは弟子でありながら、イエス様のことを裏切ったどうしようもない人物なのだ！（とか、）使徒ペテロは、口先だけの弱い人物だったんだ…」というようなことでは、決してありません。そうではなくて…、私たち人間は皆、あのイスカリオテのような…、狡猾でずる賢いような一面を持ってしまっているんじゃないでしょうか？…あるいは、あのペテロのような…、ある時には、大胆に正しいことを言っても、ちょっと何かあるとすぐにくじけてしまって、恐怖におののいたり、自分を守ろうとして嘘をついたり、また、様々な愚かな行為に走ってしまったりしやすい者じゃありません？…あるいはまた、当時の民衆たちが、そうであったように、集団心理に惑わされやすい、大勢の意見に流されやすい部分がありませんか？

イエス様が十字架にかかってくださったのは、イスカリオテやペテロのためだけではありません！むしろ、「イエス様は、私や皆さんのために…、私たちの罪を負って、あの十字架にかかってくださった！」ということです。果たして、天の神様が今、私や皆さんに願っておられることは何でしょう？私たちは、今、どのようなことをなすべきなのでしょう？ちょうど、あの使徒ペテロが、12弟子たちを代表して、こんなことを教えてくれています。どうぞ、皆さん、最後に、使徒 2:36-38 をお聞きくださいます？『36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。』37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。』

⇒今、あなたを造ってくださった真の神なる御方は、あなたが真の造り主なる神様のもとへ戻って、今までの罪を悔い改めて…、そして、神様の前に正しい決心をすべきことを教えてくれています。その1つのステップがバプテスマなのです。そうする時に、皆さんは、真の神様から罪の赦しを受けるだけでなく…、その神様からの助けや励ましを受けて…、初めて、神のみこころに沿った歩みをしていくことができるのです。どうぞ、1日も早く、この神様と…、その神様が遣わしてくださった真唯一の救い主であるイエス様を、あなたの主人として信じ受け入れていただきたいと思えます。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。